

アカデミックコモンズシンポジウム／第4回高等教育推進センターFD講演会 「アカデミックコモンズから始まる学びの再発見」

日 時：2013年10月2日(水) 16:50～18:20

場 所：関西学院大学神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ1階 シアター

開 会 の 辞

村 田 治（関西学院大学 高等教育推進センター長）

本日は、九州大学基幹教育院の山田先生にお越しをいただきまして、アクティブラーニング、あるいはコモンズについてお話しを伺います。その後、巳波先生や学生からアカデミックコモンズについてのお話をさせていただきます。

実は、今日早くにアカデミックコモンズに来させていただきましたが、運よくクレセントタワーが開催されておりまして、理工学部の学生が、物理学がいかにおもしろいものかという話をしており、30人ぐらいの学生や教職員が参加していました。非常に上手にと言いましょか、おもしろいプレゼンテーションをされておりました。しかも、先程、見学頂いたと思いますが、プレゼンテーションをしていた場所が、うまく施設に溶け込んでおり、大変感心致しました。

関西学院大学では、もともとアクティブラーニングは、それこそ三十数年前の小寺学長代行の時代から少人数教育として、ゼミナールや研究室活動を中心に行なってきました。まさに今でいうアクティブラーニングでした。この頃は中央芝生で学生が色々な議論をしており、まさにこういう場が、多分アクティブラーニングの場であったのだらうと思いますが、この頃からは少し時代も移りましたから、違った意味でのアクティブラーニングをしていくという発想で、それがこのコモンズと言われている場所だと思えます。

多くの大学で今、コモンズがつくれつつあります。関西では関関同立、ほとんどの大学でコモンズができました。あるいは関東でも色々な大学にコモンズがありますが、これから恐らく図書館の機能との連携がより重要な形になってくるのだらうと思えます。先程、山田先生とお話しさせて頂いたときに、アメリカの大学では、本学でいう高等教育推進センター、図書館、コモンズがほぼ一体化しているというお話を聞きました。まさに今後こういった形のものをつくっていく、あるいは関学でも考えていくことが必要になってくるということをつづぐ気づかせて頂いた次第です。今日は、そのようなことも含めて、山田先生から貴重なお話を聞かせていただけるものと思っております。最後までお聞きくださり、それぞれの職場での参考にしていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

講師紹介

司会：平林孝裕（関西学院大学 高等教育推進センター副長）

本日は、基調講演として、九州大学基幹教育院の准教授である、山田政寛先生をお迎えしています。現在、先生は九州大学で勤務されておりますが、もともと、NTT コムウェア株式会社でご勤務された後、東京工業大学大学院社会理工学研究科で学ばれまして、東京大学大学院情報学環、ベネッセ先端教育技術学特任助教、金沢大学大学教育開発・支援センター准教授を経て現職に就かれております。

訳著としましては、「ブレンディッドラーニングの戦略—eラーニングを活用した人材育成」、また、共著として「デジタル教材の教育学」などがございます。受賞歴として、情報処理学会大会奨励賞、日本教育工学会奨励賞、また、アメリカの CALICO Outstanding Paper Award などを受賞されております。

本日は、「新たな学びの空間 ラーニングコモンズ」と題しまして、ラーニングコモンズの成り立ちと発展、海外や日本での多様な事例、大学ごとにコモンズに対して、どのようなあり方を求めていくべきか、多様な学びのあり方がそこにあるのかといったお話を聞けると伺っております。

では、先生、よろしく願いいたします。